

2026 年 5 月 22 日

「私が愛したように」

●ヨハネ 13：31a, 34~35

卒業間近になった生徒の皆さんと何気なく日頃話していて、話の流れによっては、率直にこのように尋ねる場面があります。あなたにとって、ここで学んだイエスの教えで最も印象に残っていることは何ですか」というものです。しばらく考え、少しはにかみながら、「隣人愛？」と少し語尾を上げ気味に、私に正解を求めるように答える生徒が多いことに気づきます。そして「助けが必要な方に思いやりをもって大切にすることを学びました」と。そうね、隣人を自分のように大切にする、それは大事な教えよね、と私が言うと、ああよかった、合っていた～と言わんばかりです。

実は、「隣人愛」という言葉は、しかしながら、イエスの教えの以前からあった、旧約聖書に出てきている教えなのですね。旧約聖書のレビ記 19 章に、「自分自身を愛するように、隣人を愛しなさい」とあります。ですから、厳密に言えば、ユダヤ教徒であったイエスも、他の方々も、中でも特に戒律を忠実に守ることを誇りとしていたパリサイ派と言われるエリート集団も、皆この戒律を大切にしていました。その意味で、イエスが教えた最も大切な教えは何ですか？と尋ねられたら、「隣人愛」ではなく、正解は「相互愛」というイエスにおいて新しい教えなのですね。イエスは、旧約の「隣人愛」の掟を受け継ぎながら、それを「相互愛」へと深め、いわゆる共同体としての愛の形を完成させられ、私たちに教えてくださったのです。互いに愛し合う共同体、イエスはそれを目指した。一方向ではない愛の交わり。

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」(15 章 12 節)。このみ言葉で、私たちに、「どう愛するか」について教えてくださいました。ここでは二つのポイントが見えます。愛すると一言で言っても、どのように愛せばよいのか？という疑問には、イエスご自身の言葉にある、「わたしが愛したように」愛すること。そして、そのように愛すれば必ず、一方向ではない、「互いに」愛し合ういわゆる「相互愛」が成り立つこと。

イエスが教えてくださった神様は、愛そのもののお方です。愛することしかおできにならないと行ってもよいお方です。その神様を真ん中に置いて皆がともに生きる時、それは互いに愛し合うことが最優先の素晴らしい共同体が完成します。「わたしが愛したように、互いに愛し合いなさい」、という掟に基づく新しい掟。イエスの愛は、その友のためならば自分のあらゆることより優先する、利己の真逆です。その愛は、十字架上で亡くなるころまで行き着いて、私たちにその愛の完成形を自ら見せてくださいました。

ところで皆さんは、「愛する」って簡単に言うけれど、大好きなお友達とは違って、少し苦手な人も愛するなんて無理だ、と思っている人がいるかも知れませんね。私たちには、自

然な感情というものがあり、好きな人は好き、苦手な人は苦手、それは正直な気持ちで、それを偽って、好きなふりをする、ということでは決してありません。「互いに愛し合いなさい」は、「互いに好きになりなさい」とは違うのです。イエスのおっしゃる「愛する」とは、感情の好き嫌いを超えています。ここで言う「愛する」は、「受け入れて、大切にする」という意味なのです。そういうふうに「愛する」を言い換えたとしたら、苦手な人や、自分に向かって嫌なことをしたり言ったりする人たちのことも、大切にしてください、というイエスの教えは、なかなか難しいけれど、相矛盾することではないでしょう。私は彼女のことは苦手なのだけれど、それでも人として、彼女を大切にしましょう。彼女の言うことは納得できないけれど、人として大切にしよう、自分は言い返したりしない、と思うことができれば、それはあなたがこれまでよりも一段階も二段階も成長できたという証しでしょう。「愛する」とは好きという感情ではなく、静かに自分の中でなされる決意であり、意志であり、自分の生き方をまっすぐにしていく姿勢そのものであるでしょう。

イエスの愛を学び、その愛に生きるために、努力をするあなたのことを、イエスは「弟子」と呼んでくださいます。「弟子であることを皆が知るようになる」(35 節)とも言われました。このような難しいことは、自分の力だけでは何ともならず、神様の助けが必要だということを、イエスご自身はよくわかっておられます。神様は、ご自身の愛をお手本にしたいと願う私たちを放っておかれるはずがありません。その確信のもとで、今日もイエスに倣って、イエスが愛されたように、お互いに愛することを学びながら実行していきたいと思います。